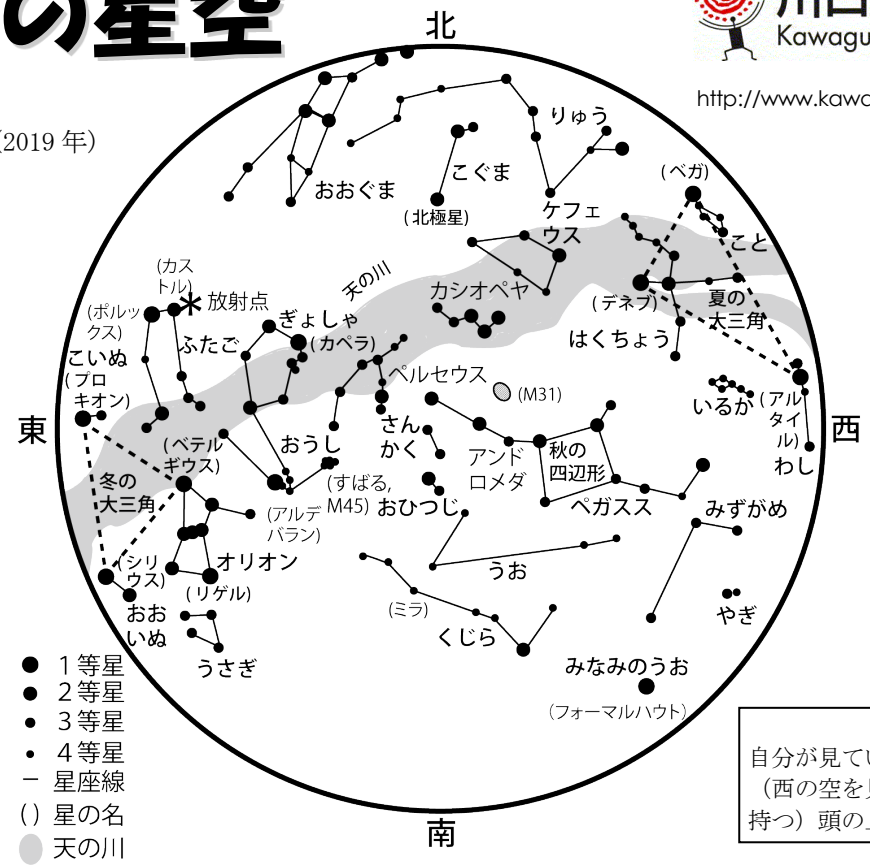
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum

12 月 (2019 年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、（西の空を見るときは西を下にして持つ）頭の上にかざして見ます。

月　齢　◐上弦 4 日、○ 満月 12 日、◑下弦 19 日、● 新月 26 日
惑星情報　水星　明け方　東（てんびん→さそり座　ー1 等級）※上旬まで
金星　夕方　南西（いて→やぎ座　ー4 等級）　火星　明け方　南東（てんびん座　2 等級）
土星　夕方　南西（いて座　1 等級）※中旬まで

☆冬の星座とふたご座流星群（12 月 15 日 4 時頃極大）

東の空には冬の星座のにぎやかな星々が昇り、星空もいよいよ冬の訪れを感じさせます。冬の星座は明るい星が多いことに加え、その色の違いも見どころの一つ。まずは、高いところにあるおうし座のアルデバラン（オレンジ色）やぎょしゃ座のカペラ（黄色）を見てみましょう。また、ふたご座のポルックスとカストルも「金星（きんぼし）・銀星（ぎんぼし）」と称され、色の違いを楽しめます。

そのふたご座の名を冠した「ふたご座流星群」が 15 日午前 4 時頃に極大を迎えます。流星数の多い三大流星群の一つであり、他の流星群に比べて、夜の早い時間帯（20 時頃）から明け方近くまでの長時間にわたり流星を観察できることが特徴です。観察に適した 14 日から 15 日にかけての夜は、明るい月（12 日が満月）が一晩中空を照らしているため、月がないときに比べると観察できる流星数は減りますが、なるべく月を視野に入れないようにして観察してみましょう (注 1)。

☆部分日食　12 月 26 日

1 月 6 日以来、今年 2 度目の部分日食が見られます。今回は右図のとおり、日没までの 2 時間ほどの現象で、食の最大時の太陽高度が約 9 度と低いため、南西の空が開けた場所で観察しましょう。

【注意】太陽を絶対に直接見てはいけません。太陽は強い光と熱を出しています。正しい方法で観察しないと目を痛めたり、失明したりする危険があります。

安全に観察する方法は、①専用の遮光板を使う（製品の使い方や注意事項をよく読むこと）、②ピンホール投影法（厚紙などに小さな穴を開け、その影の中に移る太陽の光を見る）などがあります (注 1)。

科学館では小型望遠鏡や遮光板を用いた特別観測会を開催します。詳しくはお問い合わせください。

川口での日食予報
食の始め　14：28
食の最大　15：35（食分：0.39）
日　　没　16：33（食分：0.01）

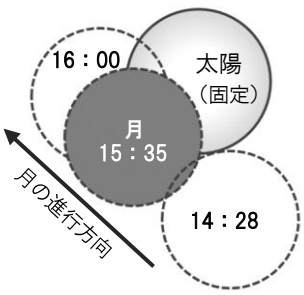


図　日食時の太陽と月の位置関係

（注 1）流星群や日食の詳しい情報は国立天文台のウェブサイト（https://www.nao.ac.jp/）等でご確認ください。